

Cisco Identity Services Engine 盲目 SQL インジェクション脆弱性

Medium	アドバイザーID : cisco-sa-20190717-ise-sql-inject	CVE-2019-1942
	初公開日 : 2019-07-17 16:00	
	バージョン 1.0 : Final	
	CVSSスコア : 4.3	
	回避策 : No workarounds available	
	Cisco バグ ID : CSCvp29278	

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco Identity Services Engine (ISE) のためのスポンサー門脈 Web インターフェ이스の脆弱性は任意 SQL クエリの実行によって影響を受けたシステムの統合に影響を与える認証される、リモート攻撃者可能にする可能性があります。

この脆弱性は、ユーザ提供による入力の不十分な検証に起因します。攻撃者は巧妙に細工された入力の影響を受けたシステムに SQL 文が含まれている送信によってこの脆弱性を不正利用する可能性があります。正常なエクスプロイトはデータの統合に影響を与えるいくつかのデータベーステーブルの Modify エントリに攻撃者を可能にする可能性があります。

この脆弱性に対処する回避策はありません。

このアドバイザーは、次のリンクより確認できます。

<https://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20190717-ise-sql-inject>

該当製品

脆弱性のある製品

出版物の時に、この脆弱性はソフトウェア リリース 2.6.0 を実行する Cisco ISE に前に影響を与え。

最も完全な、現在の情報についてはこのアドバイザーの上でバグID の詳細 セクションを参照

して下さい。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

このアドバイザリの[脆弱性が存在する製品の](#)セクションにリストされている製品だけ既知この脆弱性によって影響されるためにである。

回避策

この脆弱性に対処する回避策はありません。

修正済みソフトウェア

ソフトウェアのアップグレードを検討する際には、[Cisco Security Advisories and Alerts ページ](#)で入手できるシスコ製品のアドバイザリを定期的に参照して、侵害を受ける可能性と完全なアップグレードソリューションを確認してください。

いずれの場合も、アップグレードするデバイスに十分なメモリがあること、および現在のハードウェアとソフトウェアの構成は新規リリースでも継続して適切なサポートが受けられることを確認してください。不明な点については、Cisco Technical Assistance Center (TAC) もしくは契約しているメンテナンスプロバイダーにお問い合わせください。

修正済みリリース

修正済みソフトウェアリリースについての情報に関しては、このアドバイザリの上でバグIDの詳細セクションを参照して下さい。

不正利用事例と公式発表

Cisco Product Security Incident Response Team (PSIRT) では、本アドバイザリに記載されている脆弱性のエクスプロイト事例やその公表を確認していません。

出典

本脆弱性は、シスコ内部でのセキュリティテストによって発見されました。

URL

<https://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20190717-ise-sql-inject>

改訂履歴

バージョン	説明	セクション	ステータス	Date
1.0	初回公開リリース		最終版	2019-July-17

利用規約

本アドバイザーは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザーの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザーの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。